2016 年 6 月 10 日

JSAS 日本アニメーション学会 主催

日本アニメーション学会賞 2016

選考結果・贈賞式 のお知らせ

■日本アニメーション学会賞 2016：

該当作なし

■奨励賞：

『日本のマンガ・アニメにおける「戦い」の表象』

足立 加勇（2015 年/ http://jairo.nii.ac.jp/0205/00003534/en）

『政岡憲三とその時代 -「日本アニメーションの父」の戦前と戦後』

萩原 由加里（2015 年/ 青弓社）

贈賞式

日時：2016 年 6 月 11 日（土）13:00～15:10

※大会基調講演「アニメーションと映像をめぐる問い～アニメ、アニメーション、アニメイティング」の終了後、続いて執り行います

会場：新潟大学（五十嵐キャンパス）

図書館内ライブラリーホール 〒950-2181 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地

※取材等のご依頼は、学会事務局までお問い合わせ下さい.

選考委員

岡本美津子（プロデューサー／東京藝術大学大学院アニメーション専攻教授）

鷲見成正（慶應義塾大学名誉教授）

布山タルト（アニメーション作家・研究者／東京藝術大学大学院アニメーション専攻教授）

米村みゆき（日本近現代文学研究者／専修大学文学部教授）

[お問い合わせ先] 日本アニメーション学会事務局 担当：和田敏克 mail: secretariat@jsas.net

[主催] JSAS 日本アニメーション学会 ＜ www.jsas.net ＞

■日本アニメーション学会賞2016 選考結果について

選考委員会で検討した結果、今年度は学会賞に相当する業績は該当なしとした。

今後の活躍を期待する業績に対して、新たに奨励賞を設け、授与することとした。研究の公開、成果の共有化として、公的機関によりインターネット公開している業績についても受賞対象とした。

日本アニメーション学会賞2016主査 米村みゆき

■贈賞理由

○奨励賞／足立加勇『日本のマンガ・アニメにおける「戦い」の表象』
○奨励賞／萩原由加里『政岡憲三とその時代 -「日本アニメーションの父」の戦前と戦後』

足立加勇氏の著作『日本のマンガ・アニメにおける「戦い」の表象』は、日本のマンガ・アニメにおいて繰り返し描かれてきた「戦い」の表象を支えるメカニズムを明らかにする骨太の論考である。博士論文であるが、内容の一部は『アニメーション研究』への投稿論文に基づく。本論の主題は、マンガ・アニメの主人公たちの「戦い」とそれによって生じる犠牲を物語の受容者に承認させる暗黙の論理とは何かという問いである。その問いに対し、足立氏はキャラクターの身体性を巡る議論から物語分析へと議論を進め、「絆」こそがその鍵概念であることを示す。自己肯定の拠り所として理想化される「絆」は、そのために戦うことを正当化し、そこで生じる犠牲によって更に「絆」の価値が絶対化される循環構造を生み出す。そのメカニズムを様々な角度から明らかにしてゆく論証は批判性に富み、研究者のみならず制作者が読んでも様々な示唆を得ることができよう。全体的に議論の偏りと冗長さは否めないが、そうした迂遠な部分も含めて読み手を引きつける力があり、一般読者層にも届く書籍としての刊行への期待も込め、奨励賞とした。

萩原由加里氏の著作『政岡憲三とその時代―「日本アニメーションの父」の戦前と戦後』は、「日本のアニメーションの父」と呼ばれる政岡憲三の足跡を綿密な調査によって辿り、その業績について包括的にまとめた評伝である。代表作『くもとちゅうりっぷ』で知られる政岡は、日本のアニメーション史における最重要人物の一人でありながらも、これまで十分な研究が行われてこなかった。本書では、先行研究ではあまり言及されていなかった政岡の学生時代の美術教育からの影響や、戦後の活動にも光をあてており、新たな史実を明らかにしている。それを裏付けるために、学生時代から足掛け10年以上に渡る調査を地道に続けてきた萩原氏の功績は称賛に値する。ただしそれらの史実をアニメーションの歴史性の中でどう位置づけ、どのように評価するかという批判的な視点はまだ十分には明確化しえておらず、その点を課題として惜しくも本賞には及ばなかった。今後の更なる研究の深化を期待したい。（布山タルト選考委員）

「日本アニメーション学会賞」について

「日本アニメーション学会賞」は日本アニメーション学会（1998 年創立／www.jsas.net）の創立 15 周年記念事業として 2014 年に創設されました。

「日本アニメーション学会賞」は主としてアニメーション研究者の顕彰・奨励を目的としております。またその授賞対象は会員に限らないものとしました。これは現状においてはアニメーションあるいはメディア芸術の分野における顕彰・奨励が伝統的な分野とは異なり作家・クリエイター中心であり、創り手以外の研究者や教育者・批評家などへの顕彰・奨励の機会はごく限られたものであるからです。本学会員の間でも、かねてよりこれを解消すべき大きな課題であるとする意見が少なからずありました。

本学会がこの賞を設けることにより、これまで顧みられることの少なかった研究者の顕彰、特に若手研究者の奨励を実現させたことは、学会としての社会的使命の一つを果たすことに繋がるのではないかと考えます。「日本アニメーション学会賞」がアニメーション分野あるいはメディア芸術分野の学術研究の活性化を促し、その一層の発展に寄与ことを本学会員一同、心より願っております。

日本アニメーション学会ではこの賞を本学会会員皆の力で支え育て、末永くまた大きく発展させていきたいと希望しておりますので、関係各位の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申しあげます。

日本アニメーション学会会長 小出正志（東京造形大学教授）